

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和 3 年 7 月 2 日

事業所名： 放課後等デイサービス めだかミニスクール

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
 評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	33%	33%	33%	活動内容によっては、公民館やスポーツセンターなど利用し対応。気持ちを落ち着かせるための場所がない。	72%	28%				気持ちを落ち着かせる方法として、ダンボーハウスやテントを検討。
	2 職員の適切な配置	67%		33%	直接支援にあたる人員配置はされている。間接業務をマニュアル化し効率をはかる。	89%	6%		6%	もっと利用したい時があるので、職員の人数を増やしてほしいです。	今年度、人員を増やし対応。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備		100%		室内の環境を見直し、スペースの色分け、仕切りなどを作成中。	72%	6%	6%	17%		保護者より具体的な意見を聞き取り対応していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	100%				94%	6%				
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	100%									
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施			100%	今後、検討したい。						
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	33%	67%		オンライン、動画での研修の機会を設ける。						
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	67%	33%		定期的な面談を実施、現場指導員からの意見を取入れながら、児発管が作成。次回の予定を事前に決めておく。	100%					
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	67%	33%		定期的な面談を実施、現場指導員からの意見を取入れながら、児発管が作成。次回の予定を事前に決めておく。	94%	6%				
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	100%			活動には全員が参加、はじまりの会、おわりの会を行い、集団での意識をもって活動を行っている。自由時間にはそれぞれ好きな活動を選んでいる。						

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
関係機関との連携 (続き)	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備											
	4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有		67%	33%	小中学校、医療機関と連携をとることはあるが、それ以外との連携は取れておらず、今後の課題。							
	5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供		33%	67%	対象児がいなかった。今後のために準備をすすめていく。							
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進		33%	67%	医療機関と連携をとることはあるが、児童発達支援センターとの連携はできていない。相談支援事業所とも連携し、対象児の療育中の様子など見学させてもらうように計画中							
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供		100%		学校や児童館に遊びに行った際に関わることはあるが、プログラムとしては組み込んでいない。高校生との交流はあった。今年度もコロナの状況も考慮しながら開催予定。	44%	11%		44%			
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営			100%	昨年度は、計画はしていたが、コロナの影響もありできていない。状況を考慮しながら開催予定。							
	保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	100%				100%					
		2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	100%				100%					
3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施			100%		子どもへの関わりの方、対応策について支援を行っているが、事業所職員と保護者ともに十分に支援できていないとの認識。研修等も行い、スキルアップを図っていく。	39%	17%	11%	33%			

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	100%			保護者との意見の違いがあった。共通理解できるように徹底していく。	89%	6%		6%	
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	67%	33%		悩みや相談には応じているが、十分な時間と対応ができていないと言えない。時間の確保が課題。	72%	11%	6%	6%	
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援		67%	33%	親子交流会は開催しているが、参加者が限られている。多くの方へ必要性、参加を呼びかけていく。	17%	22%	11%	50%	コロナで機会がない
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	100%			苦情としてはあがってきていない。	67%			33%	苦情となるようなことは事前にチェックしていただき、特になく、気持ちよく利用できている
	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	100%			視覚情報を用いている。写真や実物を提示している。	89%			11%	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	100%			定期的な広報誌の発行（年4回）、活動ごとに、目的や方法を明記して知らせている。Lineの活用。	89%			11%	
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	100%				100%				
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	67%	33%		マニュアルは作成しているが、内容に関して周知が不十分のため、徹底していく。	67%	6%		28%	
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施		100%		地震、津波、防雨風災害を想定した避難訓練を実施予定。非常食の試食会。	39%	6%		56%	地震、津波の時の避難を体験させておいてもらおうと安心

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえ	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえ	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
非常時等の 対応（続き）	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	67%	33%		コロナの影響で外部への研修は受けられず、動画を利用した研修などを実施予定。						
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・理解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載		67%	33%	今までに対象になるような児童がおらず、身体拘束に関する研修や検討などは行っていなかった。義務化されることを踏まえてマニュアルの作成、研修、定期的な話し合いの場を設けていく。						
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応			100%	対象児なし						
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	67%	33%		検討会の議事録の徹底して共有を図る。検討会に参加できなかった職員に対しては、後日直接伝える。						